

＜調査結果報告＞

消費意識と消費行動の変化に関する調査（2023年5月）

三重県内の事業所で働く人を対象に、「最近の物価高あるいは新型コロナウイルス感染症の5類移行などを踏まえて、消費の意識や行動がどのように変化したか」について調査しましたので、結果を報告します。ご回答いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

【担当】株式会社百五総合研究所 コンサルティング事業部 調査グループ 谷ノ上（たにのうえ）

三重県津市岩田21番27号 TEL059-228-9105、080-6961-5358

【調査概要】

- 調査期間：2023年5月24日～5月31日
- 調査対象・回答数：三重県内の事業所で働く197人

【調査結果】

◆ “節約意識が高まった”は低下。コロナ5類移行で消費意欲高まる

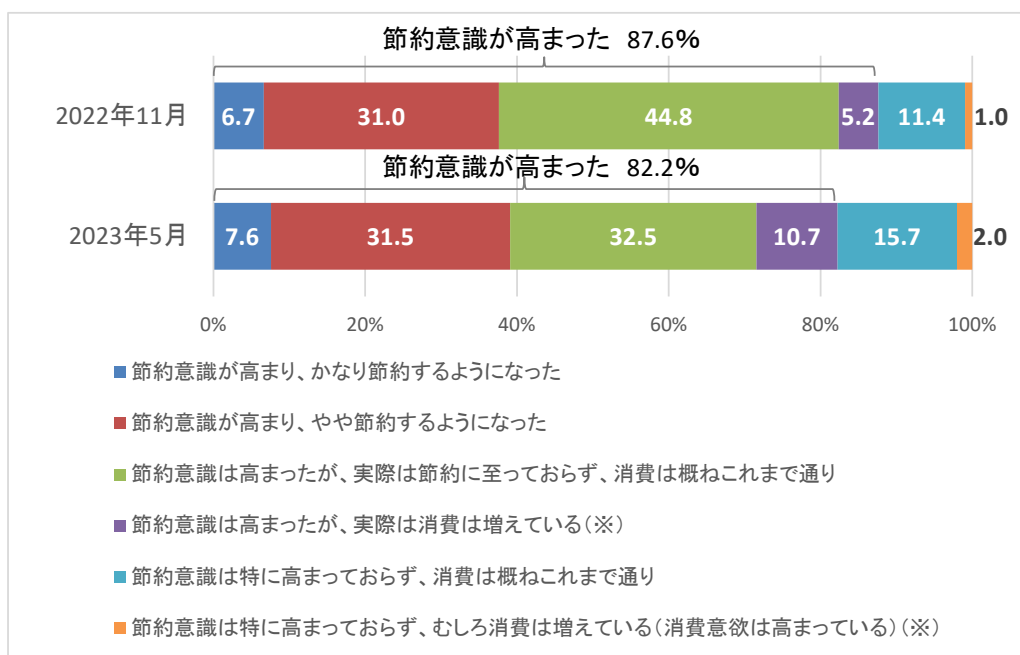
最近の物価高あるいはコロナ5類移行などを踏まえ、「節約意識（節約しようあるいは節約した方が良いという意識）が高まった」人の割合は82.2%となり、22年11月（87.6%）より低下した。

「節約するようになった」人は、「かなり節約」（7.6%）、「やや節約」（31.5%）ともに、22年11月比でほぼ横ばいにとどまった。

一方、物価高でも「節約意識は特に高まっておらず、消費は概ねこれまで通り」（15.7%）や、「節約意識は高まったが、実際は消費は増えている」（10.7%）、「節約意識は特に高まっておらず、むしろ消費は増えている」（2.0%）が、それぞれ4.3ポイント増、5.5ポイント増、1.0ポイント増となった。

物価高を意識しつつも、コロナ5類への移行に伴い消費意欲が高まっている、あるいは節約意識がやや薄れてきていることがうかがえた。なお、「ここ最近、特に消費が増えたもの」として、レジャー費や交際費・人づきあいなどを挙げる人が目立った。

■ 最近の節約意識と消費行動の変化



(※)「消費が増えている」は物価高による増額の影響を除く。

四捨五入の関係で内訳の集計と合計値が一致しない場合がある。

以上